



トップメッセージ



代表取締役社長 加藤 敬太

2006年に国連責任投資原則(PRI)においてESGが初めて提唱されてから、来年で20年を迎えます。当初はこれからの投資のあるべき姿を示したものであったと思いますが、今や、企業社会全体の規範になりつつあります。ESGの各項目の要請も年々、広範、かつ、高度になり、企業も絶えず対応の強化が必要な状況となっています。

このような流れの中、積水化学グループは2020年に長期ビジョン「Vision 2030」を策定し、ビジョンステートメントを「“Innovation for the Earth”サステナブルな社会の実現に向けて、LIFEの基盤を支え、“未来につづく安心”を創造する」とし、ESGを経営の中心に置きました。人材・環境・CS品質の3つの際立ちで製品、サービスを生み出し、その量を増やし、質を高め、

持続的に提供する。そして、それらの製品とサービスをレジデンシャル、アドバンストライフライン、イノベティブモビリティ、ライフサイエンスの4つの事業領域で社会に提供することで、サステナブルな社会の実現と当社グループの持続的な成長につなげようとしています。

そのために、特に注力しているのが、サステナビリティ貢献製品です。社会課題の解決と当社グループの成長を両立させるサステナビリティ貢献製品の売上高は、グループ全体の75%を超えています。今後もサステナビリティ貢献製品の拡大を図ることで社会課題解決力の向上を目指します。

サステナビリティ貢献製品は自然環境、社会環境の課題解決に対する貢献度が高い製品であり、産官学の社外アドバイザーからご意見、アドバイスをいただくことで、社内認定基準の高さや透明性を担保しつつ、製品の認定登録を行っています。これまでに、車両軽量化や遮熱性能向上でCO₂削減に寄与する「自動車用中間膜」、高い耐震性に加え創・省・蓄エネで居住におけるCO₂削減に寄与する「セキスイハイム」、社会インフラの老朽化や防災、減災、労働力不足対策等に貢献する「配管・インフラ材料や工法」、健康・長寿命社会を支える「検査薬や分析装置」等、環境や社会に貢献する製品、サービスを創出してきました。

カーボンニュートラルを目指し、将来のサステナビリティ貢献製品として期待しているのは、ペロブスカイト太陽電池です。国のグリーンイノベーション基金を活用し、軽量フレキシブルペロブスカイト太陽電池の開発・量産技術確立に取り組んできましたが、今年1

月に本格事業化に向け、新会社「積水ソーラーフィルム株式会社」を立ち上げました。2025年の社会実装に向けて、自治体や様々な企業と連携し、軽量でフレキシブルという特長を生かした設置場所を想定して実証実験を進行中です。

ESG経営の強化については、気候変動への対応、資源循環の推進を重点課題とした「環境」、全員が挑戦したくなる活力のある会社を目指す「人的資本」、持続可能な経営基盤のために「ガバナンス」と「人権」への取り組みを引き続き進めていきます。

今後の企業を取り巻く環境は、決して安心できる状況にありません。変化が激しく、先行きが読めない、不透明な世界がスピーディに進み、従来に増して厳しい時代に突入しましたが、社会課題解決の貢献量の拡大と当社グループの成長の両立という基本の姿勢を維持し、変化に対してより迅速に対応することを念頭に置いた経営を進めていきます。

サステナビリティレポートにおいては、今年も、当社グループの環境や社会の課題解決に関する取り組みの方向性、進捗についてご報告いたしました。ステークホルダーの皆様におかれましては、ぜひご覧いただき、ご理解いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2025年7月